



おしか ^{こうりゅう} 幸龍 ^{むかし} さんの
牡鹿比目 ^{がたり} **がたり**

入場無料



期間

2018.8.3(金)▶10.22(月)

場所

石巻市復興まちづくり交流館・牡鹿館

(復興商店街・おしかのれん街向かい)

〒986-2523 石巻市鮎川浜湊川 65 番地 tel.0225-98-9950

おしか幸龍さんの 牡鹿昔がたり

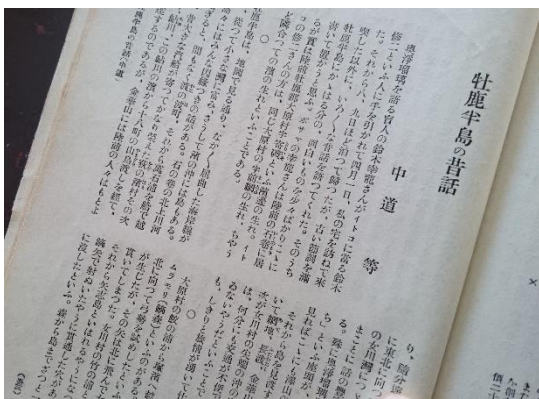
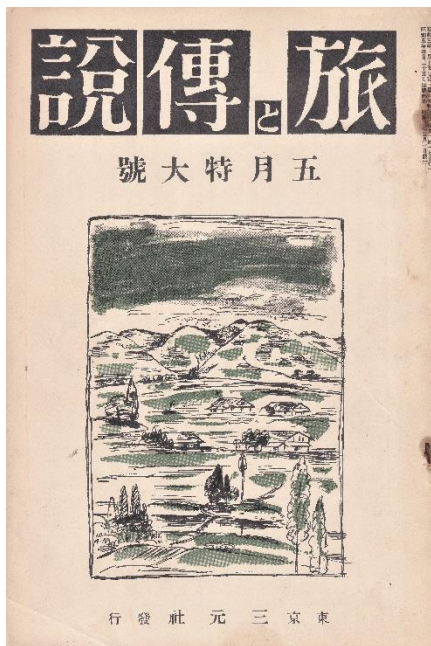
2012年から続けてきた、牡鹿半島の歴史・文化の掘りおこしのための文化財レスキュー展も、今回で19回目となりました。これまでに、捕鯨文化やスポーツ文化、外国人が撮影した明治の古写真、金華山の信仰、日本画家・平山郁夫の作品展など、さまざまなテーマを大学生たちが企画し、地域のみなさんにたのしんでいただきました。

今回は、牡鹿半島の昔ばなしがテーマです。民間伝承の研究を立ち上げた柳田國男が、戦前に主宰した『旅と伝説』という研究雑誌があります。その昭和5年5月号に「牡鹿半島の昔ばなし」という文章が載っています。投稿したのは中道等（なかみちひとし）。東北の民俗を調査し、柳田國男や渋沢敬三といった民俗学の創始者たちとつながりをもっていた人物です。彼が石巻を訪れたときに、口頭伝承の語り手として情報提供したのが、寄磯浜生まれの鈴木幸龍（すずきこうりゅう）という人物でした。浄瑠璃の芸能者で盲目の鈴木幸龍は、さまざまな民間伝承や伝説などを語って聞かせました。

ここに掲載されている昔ばなしは、『牡鹿町誌』にも掲載されておらず、埋もれた牡鹿半島の文化資源です。今回はその内容を楽しくお伝えする展示を大学生たちが企画・製作しました。現在この内容をもとに、石巻市立鮎川小学校の3・4年生と大学生がペアとなり、おじいさん・おばあさんに昔のくらしの聞き書きを行っています。そこで得られた情報をもとに、昔ばなしの劇をつくり、秋の鮎川小学校の学芸会で上演する企画も進行中です。

中道等は「牡鹿半島の昔ばなし」のしめくくりで、「牡鹿半島の話はなかなか尽きぬ」と述べています。過去—現在—未来をつなぐ歴史・文化を、復興まちづくりに活かして文化における「より良い復興」をめざしていければと思います。

東北学院大学文学部歴史学科教授
加藤幸治



第19回文化財レスキュー企画展 「幸龍さんの牡鹿昔がたり」

期 間：2018年8月3日（金）～10月22日（月） 午前10時～午後5時

場 所：石巻市復興まちづくり情報交流館・牡鹿館（復興商店街・おしかのれん街向かい）

〒986-2523 石巻市鮎川浜湊川 65 番地 TEL0225-98-9950

主 催：牡鹿半島・思い出広場実行委員会

問合せ先：東北学院大学博物館 仙台市青葉区土樋一丁目3-1 TEL022-264-6920